



有明高専だより

第141号

2013.12



目次

特集 有明高専50周年記念座談会	2・3
シリーズ研究室訪問	4
シリーズ企業訪問	5
有明高専アーカイブ	6
オープンカレッジ2013	7
第28回 体育祭	8・9
九州沖縄地区高専体育大会成績	10

全国高専体育大会成績	11
Hondaエコマイレレッジチャレンジ/柳川ソーラーボート	12
英語弁論大会/海外インターンシップ/ マスキーガン高校生訪問	13
インターンシップ報告	14・15
トピックス/編集後記	16

※本文中において、学生氏名の前にある英数字等は、所属クラスを表します。

(数字:学年、但し、6・7は専攻科1・2年。M:機械工学科、E:電気工学科、I:電子情報工学科、C:物質工学科、A:建築学科、但し、2年生は学年一組)

特集

有明高専50周年記念座談会「有明高専今昔物語」



写真左より 氷室先生・吉田先生・永守先生・森先生・上原先生・徳田先生

座談会出席者 ()は本校着任年度

機 械 工 学 科 吉田 正道先生(昭和56年)

電 気 工 学 科 永守 知見先生(昭和51年)

電子情報工学科 森 紳太郎先生(平成 4年)

物 質 工 学 科 氷室 昭三先生(昭和58年)

建 築 学 科 上原 修一先生(昭和57年)

一 般 教 育 科 徳田 仁先生(昭和55年)

司 会 : 広 報 室 松岡 高弘 (平成 3年)

松岡 今年度有明高専は50周年を迎えました。それを記念して、長年、本校でご活躍の先生方から本校に関わる様々なお話をお聞きしようと思って、お集まりいただきました。まず、50周年を迎えての感想をお聞かせください。

吉田 50周年の中の30年ぐらい本校に在籍したことになりますが、スタッフや学生に恵まれた中で良い経験をさせていただいたという、ありがたい思いがあります。会社勤めのようなことも1年間させていただき、内地および外地留学、野球部の監督等、いろいろな経験ができたことに感謝しています。

松岡 会社勤めとはどのようなことですか。

吉田 本校着任時、設計製図の担当になっていましたが、実務をしたことがなかったので、会社の設計部に入って実務の勉強をさせていただきました。週に3回、1年間、会社に通っていました。昔は一人の教員に授業以外のことをさせることができるような余裕があったと思います。

永守 電気の10期生から知っていますが、最先端での活躍から一歩退いた彼らの貫禄ある姿を目にすると、月日の流れを実感します。

森 電子情報工学科は平成元年に設立されました。私は平成4年に着任したので、昨年20年の永年勤続の表彰をしていただきました。第1期生から関わりをもてたことは良かったと思います。あつという間に20年が経過したと感じています。

氷室 50年を振り返るといろいろ感想はありますが、特に、高専がここまでよく成長してきたな、と思います。当初は中堅技術者の育成で始まった高専ですが、それが、創造的実践的技術者の育成に変わっていき、今年5月の経済財政諮問会議での麻生太郎副総理兼財務大臣の発言にあったように高く評価されてきました。また、OECDやワシントンポスト紙での良い評価もあり、このように発展するとは全く想像していませんでした。これまでの教職員の努力の結果だと思っています。

上原 多くの方々から支持されて50年を迎えられたと思います。外部からの高い評価があるように、日本の高等教育の中では「成功した例」と言えるのではないのでしょうか。多くの若者が就職に苦労する中で、社会に貢献でき、必要とされる人材を送り出す教育機関に勤務できて幸せと思っています。

徳田 高専の良さが継承されながらここまで来たと思います。数年前に卒業した学生の話ですが、父親の担任が私だったということで、その話を聞いて驚きを覚えました。50年という長い月日では、ひょっとしたら家族3代の卒業生が出ることも想像できます。親が卒業した

高専に子供を入学させたいと思うのは、高専が良いと思っているからでしょう。

松岡 様々な感想があつておもしろいと思いました。ところで、今日までの長い間、勤め続けたことは大変だったと思います。在職中、特に、印象に残っている出来事があれば紹介してください。

吉田 着任して2年目のことです。その頃、私は野球部の第3顧問でした。当時、野球部は高野連に加盟していませんでしたが、どうしても出場したいということを訴えに、丸坊主になった数人の部員が教員室に來たことがありました。その必死な姿をみて、学生の純粋な気持ちにうたれたことを覚えています。そういうことがあつて監督の役を引き受け、高野連に加盟しました。

永守 担任していた女子学生が事故でなくなったことや主事室にいた時、体育祭での事故等、不幸な出来事が忘れられません。残念ながら卒業できなかった学生や就職して若い時に亡くなった卒業生が活躍できなかったことを思うと、残念でしかたありません。

森 もともとはあまり教員になりたいとは思っていなかったのですが、授業や水泳部で接した学生が受け入れてくれて助かりました。最初に担任したクラスの学生とは今でも連絡をとりあっています。学生に支えられた20年だったと思います。

また、高校で担任をしていただいた先生と一時期同僚として在職できたこと、また、大学で教えていただいた先生とも同僚という立場になっているのは不思議な感じがします。

氷室 会社員から教員になって、最初の全校集会で「先見的独創性」の話をしたのですが、当時の校長から高専ではそのようなことはほとんど関係ないでしょう、と言われました。2年目から寮務主事補をして、その後、学生主事補をして、高専の課題は2年生だと気づきました。大学とは違う技術的展開が必要と思い、学際性や多様性等の資質を養うため混合学級を提案しましたが、当時、学内で反対され、文部省からも反対されました。

しかしながら、学科横断の教育をすることで即戦力となる技術者の育成ができると考え、1997年に創造性・多様性・学際性・国際性という教育理念をつくり、2000年から混合学級をスタートさせることができました。また、現代GPでは学生が実際に現場で活躍する機会をつくることができ、こういうことが高専教育の根幹ではないかと思っています。

上原 研修で米国に1年滞在できたことです。高専での教育とは直接関係ないですが、研究のみならず米国社会もわかり、貴重な経験だったと思います。有明高専での印象は、何と言っても、専攻科がで

きたことです。それまでは、学生を学会に連れていくことはまずありませんでしたが、現在では発表もしています。学生と研究の話ができるようになったことが、大きな変化で印象に残っています。

また、同窓会活動を通じての教育への貢献は誇り得るものと思います。年2回発行の「萩尾坂」は50号を迎えます。25年ですから50年の半分です。その他、高専祭等での各種イベント、夏祭り参加を通じた卒業生や地域との連携は素晴らしいと思います。

徳田 ラグビー部での出来事です、八代高専で行われた九州地区大会で初めて1勝したことです。素人で顧問をして、対外試合や合宿等を重ね、初めて勝った試合では、ノーサイドの笛と同時にうれしくて涙がでてきました。学生には涙を見せられないので、トイレに隠れて5分ぐらい泣いていました。

松岡 現在の有明高専があるのはこれまでに様々な変化があったわけで、その中で実感している変化はないでしょうか。

吉田 高等教育機関に求められる使命が多様化し、教育・研究をしっかりしておけば良いということだけでなく、例えば地域貢献、地域産業界や地域教育界との連携、国際交流等、どんどん要求されています。我々が最初からそのようなビジョンを持っていれば効率的に対応できるでしょうが、それに追いつかない勢いで多岐にわたる仕事をしなければならなくなったという印象が強くなります。

また、教員の人数は殆ど変わってないので、教員がいろいろなことをこなせる能力が求められるようになったと思います。そのため、昔と比べ、学生と向き合う時間が少なくなった、と感じています。

永守 専攻科ができる前まではゆったりとしていたと思います。専攻科ができて教員がやるが増えて、さらに外部審査がはいつて、本来の教育以外が増えて、何をやっているのか分からない状況です。

その他のこととして、着任した当時、年配の先生は近寄りたがたい雰囲気がありました。その年齢に達した自分自身をふりかえると、全く成長しておらず、変化していないことに驚きます。

森 学生との関わりの中で感じることは、学生から教員への質問等のアプローチが減ってきていることです。特に、低学年の学生にこのことを感じます。昔の学生はしつこくくらい教員室に来て、質問や話をしていました。このような感想を同僚の先生からも聞いているので、学生の気質が大きく変わってきたと感じています。

松岡 昭和46年建築学科入学の上原先生、今の学生との違いはどうですか。

上原 昔も今のようにいろいろな学生はいましたが、今の学生は明るい、と思います。設立間もない頃、大学に行けなくて高専に行っているのが結構いました。ミスマッチもあって、今の学生のような明るさはなかったように感じます。

氷室 学生の気質のことで言うと、学生への対応が以前よりも難しくなりました。叱りすぎると悩んでしまう学生がいたりして、一人ひとり考えながら対応しなければならなくなったと思います。

松岡 学生相談室長を長年務めている徳田先生、学生の気質の変化はどうですか。

徳田 学生の気質は明らかに変わってきました。現在の学生相談室はできて15年ぐらい経過しました。相談室がない時、担任として聞いた学生の悩みや相談の内容は、限られていたと思います。しかし、今は相談の内容が多岐にわたり、昔と違うことも現れています。例えば、ネット社会を反映してトラブルに悩む相談が増えています。また、現在の不況から経済的に修学が困難になりそうな学生が結構います。15年程前は稀な状況でした。相談室の仕事を通して、社会の変

化、学生の変化を如実につかむことができると思っています。

松岡 勤務して10年に満たない先生が増えています。そのような先生方へ伝えておきたいことはないでしょうか。

氷室 外に出て刺激を受けてほしいと思います。高専の中だけにいると周りがみえなくなってしまう。外でいろいろな情報を得てほしいと思います。グローバル化している昨今、世界の情報も必要で、そういったものを吸収し、高専の教育に反映してほしい。そうすることが本校の益々の発展に繋がっていくはずです。

上原 社会からこれほど評価されている学校は、あまりないと思います。誇りを持って勤務してください。昔と異なり、みなさん学位はあるので、私のようにそれに煩わされることはなくなりました。今後は、高専でライフワークと呼べるような、自分の「研究テーマ」を早く見つけ出してほしいと思っています。また、在外研修等を通じて、見分を広げて教育に生かして欲しいと思います。

松岡 本校は50年たち、これからも益々発展していかなければなりません。今後の本校に期待したいことは何でしょうか。

吉田 これまで本校はよくやってきていると思いますが、高専自体の認知度が社会的にまだまだ高くないので、卒業生や同窓生、我々教員が有明高専というブランドを社会に認められるようにしていく必要があるでしょう。そのような学校にしていこうという気持ちで日々、やっていただければと思います。

永守 グローバル化はさけては通っていけないので、世界に通用する人材を輩出できるような、また、大学とは違うユニークな人材を輩出できるような、高専らしさをつくれるような教育をおこなってほしいと思います。

森 鍛える教育をやったほうがよいのではないのでしょうか。基礎学力や応用力が鍛えられることを期待して本校に入学する学生が増えてくれれば良いと願っています。

氷室 本校のブランド化をどうやっていくかが重要です。他の高専が学際性や多様性等に着目し、これから取り組もうとしています。本校では15年前からやっていて、他の高専より進んでいるので、それをどう発展させるかが重要なところでしょう。

日本の高専の中で有明高専はすごい、と思わせるような、そういう学校にしていってほしいと思います。

上原 私たちも現役なので、直接かかわりたいと思っていますが、まだ、5年、7年の教育システムを生かし切れていないと感じます。特に、専攻科における教育には、ポテンシャルがあると思っています。反省を込めての弁ですが、従来の大学、大学院の教育方法に囚われてきたと思っています。もっと大胆に、学生のアイデアを生かす教育に広げたほうが良いと思います。

また、海外で活躍できる人材とともに、地元を愛し、地元に貢献できる人材も育てる必要があります。道州制なども実現させ、多くの高専卒業生が地元でも活躍できる環境を作るべきと考えます。

徳田 学生にたくさん本を読んでほしいと思います。世界に出て働く技術者には専門知識のほかに、日本以外の国の文化や慣習等を理解すること、そして、日本人としてのアイデンティティが必要だと思います。実際に外国に行って確かめることができない学生にとって本を読むことで異文化を理解することはできます。他人を認めることができれば、いじめも少なくなります。

松岡 本日は貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございます。先生方はまだまだ現役です、先頭に立って有明高専の発展に貢献していただければ幸いに存じます。

今回は、機械工学科の堀田源治先生と建築学科の岡本則子先生の研究室を訪ね、お話をうかがいました。

堀田 源治 研究室(機械工学科)

・現在の研究テーマをお聞かせください。

私達の研究室では設計工学の応用としてのモノづくりが大きな基幹です。産業におけるモノづくりのプロを養成する本校の教育指針上、QCDSM(品質、コスト、納期、安全、倫理)意識を持つことは必須であるため、研究は全て企業との共同で行っており、学生も企業の技術者と一緒に研究しております。これが当研究室の最大の特徴でしょう。研究テーマは、①リスク回避の素養と個性の分析、②構造物の接着接合部の安全性評価、③工程改善と生産の効率化、④技術者倫理教育教材の開発などです。

・この研究をはじめられたきっかけをお聞かせください。

私は30年間企業でモノづくりに従事しましたが、失敗と怪我による損失の多さに泣かされ続けました。そこで“安全な製品を安全に造り、安全に使う”モノづくりの研究の必要性を感じたのがきっかけです。“安全な製品”には技術者のセーフティーセンスが必要です。“安全に造る”ためには問題解決と改善の視点を要します。また、“安全に使う”には技術者倫理が必要です。このことから“リスク回避の素養と個性”、“工程改善と生産の効率化”“技術者倫理教育”を具体的研究テーマとしました。

・研究で苦労されたこと、心がけていることなどをお聞かせください。

企業と連携して行いますので、学生や教員が企業のスケジュール管理の中に組み入れられます。当然、かなりシビアな納期で成果を求められます。一方高専では定期試験、体育祭、球技大会などの準備期間を要する行事があり、研究が連続してできない期間が存在するために、企業との納期交渉が一番気を遣うところです。

・今後の研究の方向をお聞かせください。

学生時代に学ぶ機会のなかったQCDSMを企業に入った途端一気に要求され、慣れるまでに1〜3年を要すると聞いております。また悩んだり、将来に不安を持つ卒業生も少なくないようです。これは企業にとっても損益引当金を拡大保持しなければならぬ理由となっている以上、産学で改善すべき大きな課題であると考えます。そこで学生時代から本研究テーマでQCDSMの基本的素養を身につけ、企業に就職直後から使える“即戦力”の工学教育を目指しております。

・学生へのアドバイスをお願いします。

私達の研究室は自主管理・自主運営を心掛けております。研究の内容やスケジュールについても企業の技術者と打合せながら学生自身で決めていきます。共同研究相手の企業や大学からも評価を受け、共同研究企業に就職した学生や卒研テーマを大学院まで継続して研究した学生もいました。今でも3年前に卒業した学生と一緒に論文を学会に発表しております。企業との協働は苦しいかもしれませんが、成果を具現化する喜びは当研究室ならではの特徴です。明日に向かって一緒に頑張りましょう。

岡本 則子 研究室(建築学科)

・現在の研究テーマをお聞かせください。

熱、光、空気といった、建築物の環境に関わる諸分野のうち、「音」に着目した研究を行っています。より快適な音環境をつくるためには音響設計が必要不可欠ですが、その支援技術として、建築材料の音響特性の測定法、音環境の数値シミュレーション手法の開発に取り組んでいます。このほか、環境に配慮した建築物の長寿命化を目標に、薬剤に頼らずに振動・音響信号を利用する建築物のシロアリ防除に関する研究も行っています。

・この研究をはじめられたきっかけをお聞かせください。

大学で配属された研究室での卒業研究がきっかけです。当初は右も左もわからないまま与えられたテーマに取り組んでいましたが、その過程で、建築に関わる音の問題は、物理的要素のほか人間の生理・心理にも深く関連することなど、一筋縄ではいかないところに面白みを感じるようになりました。また、私自身、日常生活で話声の聴取に困っていた経験もあり、研究を通して室内の音環境の改善に貢献できそうだと感じたこともひとつの要因としてあると思います。

・研究で苦労されたこと、心がけていることなどをお聞かせください。

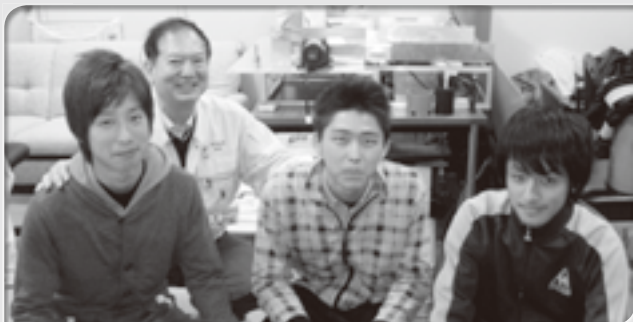
有明高専への着任直後は、それまでに所属していた機関とは研究環境が大きく異なっていたので戸惑いました。研究時間の確保や学生との研究に関するコミュニケーションの取り方などは現在も課題としてありますが、不足していた研究設備については、他機関の協力のもと、整いつつあります。また、独りよがりの研究にならないように、研究の全体像への意識を失わないように、学会などで他の研究者と議論をして、自身の研究を客観的にみるように心がけています。

・今後の研究の方向をお聞かせください。

現在遂行中の研究を引き続き行い、実用化を目指していきたいと思えます。音響設計はこれまでコンサートホールや劇場を主たる対象としてきましたが、居室や教育施設の講義室など我々の身近な環境でも行われるように、システムを構築できればと考えています。

・学生へのアドバイスをお願いします。

技術者として、具体的な夢や目標を持つことは大切ですが、なかなかやりたいことが定まらないこともあるかと思います。そのような時は、まずは、勉強や研究などなんでもよいので、与えられた目の前の課題に真剣に取り組んでみてください。流されつつも努力を続けていると、自分のやれること、自分にしかやれないことが自ずとみえてきて、いつか自分のやりたいことがみつかると思います。



シリーズ 企業訪問

—卒業生を訪ねて—

ユニタック(株)本社／久留米工場

〒839-0801 久留米市宮ノ陣3丁目7-57

聞き手:M科 吉田 正道

今回は福岡県久留米市にあるユニタック株式会社本社・久留米工場に生産技術課長として勤務されている横山僚治さん(機械工学科平成13年卒業:34期生)を職場に訪ね、お話を伺いました。

吉田:まず、ユニタックはどのようなことをやっている会社なのですか。

横山:電車の車輪軸やガスタービンエンジン、蒸気タービンエンジンの動力軸など、重厚長大な機械部品に、深い穴をあけるための工具、いわゆる深穴切削用の特殊ドリルを作っている会社です。

吉田:会社の中で横山さんが携わっているのはどんな仕事ですか。

横山:私は現在、営業や技術の部署から送られてくる受注品の3Dモデルを2Dの製作図面に変換したり、それを製作する自動機械のプログラムを作成したりする生産技術課の課長職としての仕事をしています。また、生産技術課では、工場にある自動機の設置計画やメンテナンスの仕事も担当しています。例えば、ロボットの導入やその使用方法の変更検討のような仕事です。

吉田:これまでの仕事の中で最も印象に残っているものはどんなことですか。

横山:2009年の工場移設の仕事でしょうか。兵庫県の工場から生産設備機械を久留米の新工場に持ってきて稼働させるのですが、機械の分解・積み込みの指示、久留米工場での据え付け、立ち上げなど、たいへん忙しかった時期の印象が今でも残っています。

吉田:これまでの職場経験の中で、高専で得たものが役に立ったと感じたことはどんなことですか。

横山:すべてのことが役に立ったと思っています。というのは、現在の技術者は様々な分野の知識・情報を広く身につけておかなければ仕事できません。特にスタッフの少ない職場の場合、機械の技術者が工場移設のために建築学の知識を必要とすることもあります。電気や電子の知識は当たり前のように要求されます。有明高専で機械だけでなく、その他の分野の学習の機会を与えられたことがたいへん役に立っています。つまり、引き出しの多さを与えてもらいました。今は、機械だけ、電気だけという技術者は通用しないと思います。今の学生さんに言いたいのは、苦手な科目をないがしろにしないで、何でもちゃんとやってもらいたいと思います。高専を卒業して10年たって、学生の時「あれもやっとけばよかったな」「そういえばなんか習ったよな」とつくづく思います。

吉田:そうですね、広い知識が技術者のセンスとして発揮されることがありますね。

横山:生産現場において、「この電気部品とこの部品を組み合わせてもダメなんじゃないの」といった現場での的確な判断をするフィーリングを持つ技術者は、高専でなくては出せないんじゃないかと思っています。

吉田:いま、高専教育において「グローバル化」といって、国際性の育成が強く要求されていますが、会社においては、どうですか。

横山:ユニタックが属している企業グループは世界的に展

開しているため、社内の図面はすべて日英併記になっています。また、部品の発注などを海外に行いますので、メールのやり取りは英語で行っています。また、持ち株会社が海外の会社ですので、改善活動や新しい設備投資の説明も英語でプレゼンしなければなりません。

吉田:横山さんもそのようなことをやっているのですか。

横山:必要に応じて、ずっとやってきています。

吉田:高専生は、一般的に英語が苦手だといわれていますが、横山さんはどのようにして克服したのですか。

横山:それは、やはり就職してから、英会話の学校に通って勉強しました。そのための費用はかなりのものでしたが、この投資は必ず将来私にとってプラスになると信じて通いました。わたしたちの英語は技術者同士のコミュニケーションツールで、専門用語が共通ですから、ある程度の英会話能力があれば何とかできます。社内にTOEIC900点台の社員が何人もいますが、和文技術文書の内容が理解できないため、その英訳は私たち技術者でなければできません。

吉田:しかし、細かい意思疎通にはかなりの英語力が必要になることはありませんか。

横山:それは、英会話能力が高ければそれに越したことはありませんが、日本語でのコミュニケーションができない人がいくら英語が上手でも、うまく意思疎通ができるでしょうか。英語が大事とよく言われますが、やはり基本は学校で習う幅広い知識だと感じています。あまり学生時代に英語に傾倒しないしてほしいと思います。英会話はその気になれば、20代からやっても間に合います。やっぱり、基本はエンジニアとしての素養だと確信しています。15歳からの若い期間にエンジニアの素養を積み重ねていくことが大切であり、図面を見ればピンとくるようなセンスを身に付けてもらいたいと思います。

吉田:最後に、有明高専の在学生へメッセージをお願いします。

横山:私は卒業して13年目で34歳になるんですけど、人生に与えられた時間の短さを感じます。1年50週として80歳までの人生で4000週とすれば、すでに1700週を過ごしてしまったという感慨があります。学生時代の1週間はとても貴重な時間です。充実した時間を過ごしてもらいたいと思います。技術者に必要なのは、少しの向上心とやる気です。

吉田:本日は、お忙しいところ、ありがとうございました。



ユニタック(株) 応接コーナーにて

短期集中 シリーズ 有明高専 アーカイブ

今回は最後で、平成20年から現在までを紹介します。

H20. 3 シンガポール・ポリテクニクとの交流開始

H18年6月に九州10高専とシンガポール・ポリテクニク3校との包括協定が締結されたことに伴い、H20年3月、本科4・5年生および専攻科生の合計14名がシンガポール・ポリテクニクと交流を行った。

H21. 3 現代GP 地域再生セッション開催

H18年度から3年間採択された現代的教育ニーズ取組支援プログラム「荒尾地域再生産学住協働プログラムーまちなか研究室から食・酒造り、まちづくりー」の総括として地域再生セッションが開催され、専攻科生はポスターセッションで取組を披露した。



H21. 5 授業参観の開始

保護者の皆さんに対して普段の勉強の様子をみていただくために実施した。H23年5月からは連休の間の平日に実施日を変更した。



H22. 6 中国遼寧石油化工大学との国際交流協定更新

H17年6月に締結した遼寧石油化工大学との交流協定を更に5年間延長した。



H22. 8 有明高専意見箱の開設

H23. 3 荒尾市教育委員会との連携協力協定締結

H24. 7 環境問題の解決を担う次世代科学者養成プログラム「有明次世代科学クラブ」開校

全国の高専ではじめて科学技術振興機構主催の次世代科学者養成プログラムに採択された。



H24.10 第23回全国高等専門学校プログラミングコンテストを大牟田文化会館で開催



H25. 3 大学評価・学位授与機構による「高等専門学校機関別認証評価」で高い評価

H24年10月に大学評価・学位授与機構による「高等専門学校機関別認証評価」を受審し、H25年3月に「高等専門学校評価基準」では「評価基準を満たしている」、「選択的評価基準」で「目的の達成状況が非常に優れている」と評価された。



H25. 4 JABEE認定

H24年11月にJABEEの中間審査を受審し、H25からさらに3年間の認定継続となる。



H25. 11 有明高専創立50周年記念式典



オープンカレッジ 地域共同テクノセンター

8月24日(土)・25日(日)の2日間にわたり開催された「オープンカレッジ2013～みて・ふれてワクワク体験!～」には初日616名、2日目486名(計1,102名)の方々にご来場いただきました。このオープンカレッジの趣旨は、地域の方々に本校を紹介して交流を深めること、科学に基づいた「ものづくり」に触れて、小中学生に理科への興味を持ってもらうこと、そして本校の魅力を知っていただくことであり、今年で9回目を迎えました。

本年度は、各学科の特長を活かした「ものづくり体験教室」、中学生や保護者をはじめ来校者に高専を紹介した「学校紹介」、部活動を紹介した「学生活動紹介」および「女子学生によるイベント」、特に進学を控えた中学3年生向けの「個別進路相談」および「女子学生による相談会」、本校卒業後の就職先の参考となる「地域の企業紹介」等が行われました。

また、オープンカレッジと同時期に行われる「ロボットJリーグ」は、今年で19回目の開催となりました。大牟田・荒尾地区近郊から参加した13チーム53名の小中学生は5日間をかけてロボットを製作しました。最終日の25日には、丹精込めたロボット達による熱い戦いが繰り広げられ、オープンカレッジ全体もさらに一層盛り上がりしました。

両日とも悪天候の中、地域の方々や周辺の小中学生のみならず、遠方からも多くの来場者が来られ、全体として大過なく成功に終わりました。



機械工学科

- ・機械は奇怪、なんだこりゃ!
- ・ロボットの世界を探検しよう!



物質工学科

- ・いろんな化学実験を体験しよう!
- ・体験授業



学校・学生活動紹介

- ・「高専ってどんな学校?」
- ・個別!中3向け進路相談
- ・学生活動紹介



電気工学科

- ・クリップモーターで回転競争だ!
- ・はじめての電子回路講座



建築学科

- ・楽しいおりがみ建築
- ・模型でつくる“憧れのマイハウス”



女子学生イベント

- ・カルメ焼きを作って食べよう



電子情報工学科

- ・楽しい電子情報技術!
- ・プログラミングを体験しよう!



一般教育科

- ・やってみよう!楽しい理科実験



ロボットJリーグ



第28回 有明工業高等専門学校
創立50周年記念 体育祭

第28回体育祭 創立50周年記念 10月20日(日)

Enjoy it!!

～50年の伝統と共に～

日時 平成25年10月20日(日) 8:50～
場所 有明産業グラウンド

M
E
I
C
A



総合優勝A科・敢闘賞M科・応援賞A科・バックボード賞A科・マスコット賞C科



第50回 (平成25年度) 九州沖縄地区高専体育大会成績

◎陸上 7/20・21 県営八代運動公園陸上競技場
学校対抗 2位 (総合得点88点)

[男子]

200m	梅崎 浩太郎	2位	22.48
400m	平川 朔弥	3位	51.28
1500m	井下 元気	2位	4:13.89
走高跳	松藤 貴大	1位	1m91
男子4×100mR		2位	43.10
(田中 健太・松田 拓巳・梅崎 浩太郎・梅崎 龍之介)			
男子4×400mR		1位	3:25.53
(平川 朔弥・梅崎 龍之介・溝口 昶司・梅崎 浩太郎)			

[女子]

100m	菊田 めぐみ	1位	13.12
砲丸投	川島 茜音	1位	10m34
"	吉川 みくる	2位	8m97
女子4×100mR		3位	57.78 (オープン競技)
(吉川 みくる・菊田 めぐみ・川島 茜音・橋本 好美)			

◎ソフトテニス 7/20・21 熊本県民総合運動公園パークドーム
団体 予選敗退

個人戦[男子] 堤 将裕・堤 敏裕 3位

◎バドミントン 7/20・21 八代市総合体育館

団体戦男子	3位
女子	準優勝 (オープン競技)
男子ダブルス	一木 一馬・辛嶋 亮哉 3位
女子シングルス	牛島 美夏 3位
女子ダブルス	牛島 美夏・江口 綾 3位

◎水泳 7/20 アクアドームくまもと

自由形100m	金子 航大	3位	1:00.47
バタフライ100m	石橋 佑樹	3位	1:03.37
バタフライ200m	石橋 佑樹	3位	2:31.73

◎ハンドボール 7/20・21

八代市東陽スポーツセンター、ウィングまつばせ
優勝

◎硬式野球 7/19～21

都城運動公園野球場、小林総合運動公園野球場
準々決勝敗退

◎バスケットボール 7/13・14

早水公園体育文化センター、都城運動公園体育館

男子 3位

女子 準優勝

◎卓球 7/20・21 高城運動公園総合体育館

団体男子	準優勝
男子ダブルス	宮尾 優一・水落 滉太 優勝
男子シングルス	水落 滉太 3位

◎剣道 7/21 都城高専第1体育館

団体戦の部 3位

◎サッカー 7/19～21

国分運動公園陸上競技場、国分運動公園多目的広場
準々決勝敗退

◎柔道 7/20・21 国分運動公園武道館

団体戦の部	優勝
個人男子	90kg以下級 石貫 大地 優勝
"	" 上田 龍二 3位
"	90kg超級 三毛 宗良 3位

◎バレーボール 7/14・15 牧園アリーナ

男子 準々決勝敗退

女子 予選トーナメント敗退

◎テニス 7/12・13 熊本県民総合運動公園パークドーム

団体戦男子	初戦敗退
女子	4位
男子ダブルス	甲斐 涼太・川島 直城 3位
女子シングルス	岩下 華穂 準優勝
女子ダブルス	竹下 咲紀・沖 あいみ 3位



第48回 (平成25年度) 全国高専体育大会成績

◎陸上 8/18・19 上荒川公園内 いわき陸上競技場

[男子]

200m	梅崎 浩太郎	予選敗退	
400m	平川 朔弥	8位	52.51
1500m	井下 元気	11位	4:23.39
走高跳	松藤 貴大	8位	1m85
4×100mR		5位	43.88
(松田 拓巳、明石 祐嗣、梅崎 浩太郎、梅崎 龍之介)			
4×400mR		5位	3:24.12
(平川 朔弥、梅崎 龍之介、溝口 昶司、梅崎 浩太郎)			

[女子]

100m	菊田 めぐみ	3位	13.39
砲丸投	川島 茜音	3位	10m23
"	吉川 みくる	7位	8m69

◎ソフトテニス 8/21・22 仙台市泉総合運動場泉庭球場

個人戦 堤 将裕・堤 敏裕ペア 2回戦敗退

◎卓球 8/16・17 一関市総合体育館 (Uドーム)

男子ダブルス 宮尾 優一・水落 滉太 予選リーグ敗退

◎柔道 8/24 宮城県武道館

団体戦 予選リーグ敗退

個人男子 90kg以下級 石貫 大地 3位

◎バドミントン 8/24・25 仙台市体育館

団体戦女子 準々決勝敗退

◎水泳 9/1 秋田県立総合プール

自由形100m 金子 航大 予選敗退

バタフライ100m 石橋 佑樹 予選敗退

バタフライ200m 石橋 佑樹 予選敗退

◎ハンドボール 8/17・18 十和田市総合体育センター

予選リーグ敗退

◎テニス 8/28～30

いわき市平テニスコート、いわき市南部テニスコート

女子シングルス 岩下 華穂 準々決勝敗退

女子ダブルス 竹下 咲紀・沖 あいみ 1回戦敗退

(地区大会上位チームの出場辞退により繰上出場)



第43回 (平成25年度) 西日本地区高等専門学校弓道大会

7/13・14 三股町弓道場

男子団体 予選敗退

女子団体 予選敗退



Hondaエコマイレージチャレンジ2013全国大会初出場

5M 柿原 大輝

自動車工学研究部は低燃費競技車輛・エンジンの改良を行い、1リットルのガソリンで何km走ることができるかという燃費競技大会に出場しています。今年の九州大会はグループ内における3連覇がかかっていましたが、悪天候により中止になり成果を出すことができませんでした。しかし、今年はスポンサー様をはじめとする多くの方々のご支援により、念願の全国大会へ出場することができました。

10月5日(土)～6日(日)に行われた全国大会には50cc4ストロークエンジンをベースとした自作車輛で出場するグループ「大学・短大・高専・専門学校クラス」に出場しました。全国大会ということもあり総勢410チームが参加し、九州大会とは異なる緊張感のある空気が流れていました。練習走行・決勝ともにトラブルも発生することなく規定時間内に走行を終えることができました。しかし、思うように記録を伸ばすことができず、817km/lという記録でグループ内87台中13位という結果に終わってしまいました。全国大会では約半数のチームがタイムオーバーや車輛のトラブルによりリタイアする程、厳しい大会でしたが初出場

という厳しい環境の中で、完走して記録を残すことができたと良かったです。

全国大会への出場を通して、記録向上の難しさや、やり残した改良点を再確認することができました。来年からも九州大会・全国大会へ出場し、さらなる燃費向上を行っていきますので、変わらぬご支援、ご協力を宜しくお願い致します。



柳川ソーラーボート大会2013

5E 伊東 宥貴

ソーラーボート愛好会は、8月3日(土)、4日(日)に柳川で開催された“柳川ソーラーボート大会2013”に参加しました。昨年よりも作業がスムーズに進み、また、技術職員の方々に協力いただき昨年の船を超えるものができました。

今年、船の製作をする上での目標は“予選突破すること、エンターテイナーになる”でした。勝ち負けよりも面白い船を作り上げ、目立つことを楽しみに製作しました。来れる部員、やれる時間にやる、できることをやる、という高効率とは言いがたい作業の結果、できあがった船は、黄色のボディに赤く丸いほつべた、縦長の耳。船の名前は“光宙(ピカチュウ)”です。

大会は2種目を2日間に分けて行い、1日目にお堀のまわり1周のタイムを競う周回レース予選、2日目の午前中は、150mの直線上に等間隔にあるクイを避けながらタイムを競うスラローム、午後はお堀のまわり3周のタイムを競う周回レース決勝というスケジュールで行われました。

満を持して臨んだ大会1日目、ドライバーは黄色の服を着て、ピカチュウのお面をかぶり、小さなぬいぐるみを船頭に縫いつけ、溢れるやる気を抑えることなくレースに臨みました。すると、「あっ、ピカチュウ!」、「かわいい船やね、ピカチュウやろ」と、小さな子供からおじさんまで幅広い世代の方から声をかけていただき、また、場内アナウンスでも紹介していただいて、目立つことができたと同時に、“エンターテイナーになる”という目標を果たすことができました。肌で感じたピカチュウ人気に感謝です!!

そして、結果発表の時。決勝には13位まで行けます。配布された順位表には“学生の部27チーム中10位”とあり、本科チームとして6年ぶりの予選突破を果たすことができました。

残念ながら2日目は雨のため周回レース決勝は中止になり、スラロームだけ行われ惜敗しましたが、みんなで足湯に入ったのが良い思い出です。最後の大会では、予選突破とエンターテイナーになるという目標を同時にかなえることができ、とても嬉しくとても満足のいく大会でした。後輩には次は優勝目指して頑張ってもらいたいです!!

最後に今回の大会で、5年生が3人抜けて後輩が2人しか残りません。来年も大会に参加予定なので、ソーラーボートに興味がある人、興味はないけどなんか部活したい人、途中入部でも歓迎な部活なのでM科 岩本先生、機械実習工場の河村先生、E科 技術職員の岡崎先生まで話を聞いてみてください。全学科歓迎なので、ぜひお待ちしております!!



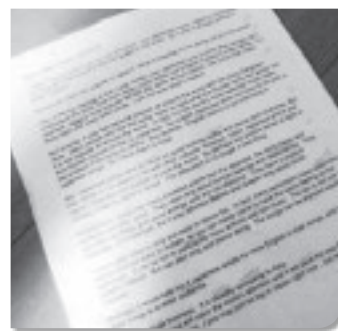
第46回九州沖縄地区国立高等専門学校英語弁論大会

1C 坂口 ももか

私は、8月23日(金)に北九州高専で行われた第46回九州沖縄地区国立高等専門学校英語弁論大会に出場してきました。今大会出場するのは私だけだったので、私とGrumbine先生の2人で参加しました。

音楽を聴くことが好きなので音楽のことについて書きました。世界まで目を向けたとてもスケールの大きな内容になりました。スピーチを作るところから先生や先輩方のたくさんのアドバイスののおかげですごく良いものを作ることができました。

大会本番は、たくさんの観客の方が来ていてとても緊張しました。しかし、自分のベストを尽くすことができました。今大会は、入賞することはできませんでしたが、今回のこの大会で学んだことを来年再来年と生かして頑張ろうと思います。



海外を経験すること

6E 吉住 亮祐

私は、タイのバンコクにあるMKwatertechという会社に4週間行ってきました。会社には日本人は2人だけで他の社員さんは全員タイ人の方でした。会社は造水・排水施設の施工管理を行っていて、私はタイ人スタッフの方に同行して仕事のお手伝いなどをしました。コミュニケーションは基本的に英語で行っていました。会話をしている一番つらかったのは自分が上手く英語が話せなくて相手に言いたいことが伝えられないことではなく、相手の言っていることが分からなかったことです。自分が話すのは日が経つにつれて、身振り手振りなどでなんとか伝えられるようにはなりましたが、聞く方は短期間ではどうしても限度があり、リスニングをもっと鍛えてればなと痛切に感じました。

会社での実習もとても貴重な経験になったのですが、なにより一番ためになったのはやはり「海外に滞在する」ということでした。私は海外に行くこと自体初めてだったのですが、ほんとうに初めてのことばかりで毎日が新鮮で日本で過

ごしているだけでは経験できない多くのことを経験することができました。社長の斉藤さんは「若いうちにしかできないことがある。その一つが若いうちに海外を見ておくこと。大人になってからでは見ることができない景色、できない経験がたくさんある。」とおっしゃっていました。その意味を私はこのインターンシップで理解できたとし、学生の時にもっと海外に行っていればと後悔しています。これを読んで少しでも海外に興味を持ってもらえればと思います。



マスキーガン高校生 1日学校体験

国際交流委員長 富永 伸明

大牟田市の姉妹都市米国シガン州マスキーガン市からの高校生訪問団(生徒5名、引率教員1名)が、10月23日(水)に「1日学校体験」として来校されました。1時間目の5Aの講義では、本校学生の英語による「日本における地震状況」と「紙モデルの作り方」の説明が行われた後、日米混合班でのモデルづくりでした。班の中では、自己紹介や世間話(?)をしながら作業が進められました。高校生たちは、手伝ってもらって無事モデルを完成し、建築構造における筋か



いの必要性を認識しました。その後、M、I、C科と校内見学を行いました。エコカーやロボコン出場ロボットには興味津々でした。



昼休みに校長先生を表敬訪問し、午後は、3E学生実験に参加し、プログラミングとクリップモーター工作を行いました。生徒たちは、自分で作ったプログラムで車が走るのに大満足でした。7時間目の4年生の英語では、生徒たちがマスキーガン市やハイスクールの紹介を行った後、交流を行いました。1日びっしりのスケジュールでしたが、「今日1日のプログラムは、最高だった!KOSENは素晴らしい学校だ!」とお礼を言われ、日本にしかないKOSENの良さを理解していただけた様子で私も一安心でした。

お世話いただいた皆様本当にありがとうございました。

インターンシップ報告

(株)MHIコントロールシステムズでのインターンシップ 4M 大田 敬大

私は8月26日～8月30日までの5日間、神奈川県横浜市中区にある(株)MHIコントロールシステムズにインターンシップに行ってきました。この会社は主にプラントの自動制御システムの製作・検証・保守やそのためのソフトウェアの開発を行っています。

実習では、火力発電の電源を監視するためのロジックシートの製作を担当しました。この作業は情報系分野のものであり、機械系の分野ばかり勉強してきた自分にとってはゼロからのスタートでした。したがって、分からない所を実習指導員の方に教えてもらいながら、5日間の実習期間を過ごしました。最初は分からないことばかりで嫌になることもありましたが、分かるようになると次第に楽しくなりました。

最後に、今回のインターンシップでは、自分が今所属している学科の勉強だけではついていけないということを学びました。産業全体が多様化・合理化する中で生き残るためには様々な分野を勉強する必要性を感じました。また、もう一つ学んだことは、分からない部分は正直に分かれないと主張することです。分からないことを分からないまままでことを進めていくと、全体に迷惑がかかるし、自分の為にもなりません。そんなことを感じた5日間でした。



インターンシップ報告

4E 伊木田 公貴

私は8月23日から同29日までの間、愛知県犬山市のムラテックCCS株式会社のインターンシップに参加しました。ムラテックCCSは村田機械の製品を定期点検や修理などを行っている企業です。インターンシップではこれに沿った4つのテーマを実習として行いました。

どの実習においても「作る」という工程があり、精度や問題解決に妥協を許さない姿勢がとても印象的でした。他にも安全への意識が非常に高いことなど実際に働いている方と一緒に作業しなければならなかったであろうことが多くありました。

テーマの一つであるシーケンスを用いた実習では、指示通りに動作するシーケンスプログラムを作成したつもりでも、実際には想定していなかった問題がいくつも発生しました。これらの問題の原因や解決策を見つけることにはとても苦労しましたが、問題を解決した際には授業とは違った疲れと達成感がありました。また、自ら考え実行する力が重要だと再認識することができました。

また社員の方との懇親会も開いていただき、就職に向けた話や就職した後の話など様々なことを聞くことができました。将来の進路選択に良い影響を与えることになったと思います。

今回の実習を通して、働くことに明確なビジョンが見られるようになりました。これまでの学習で十分やっていたことがあることも分かり、自信を持つことができるところもありました。一方で、まだまだ足りない点も多く、実力の無さを痛感しました。この実習で得た経験を活かして、長所をさらに伸ばしつつ、足りない点を少しでも補えるよう残りの学生生活に励みたいと感じたインターンシップでした。



インターンシップ報告

4I 佐田 祐輔

私は8月20日から31日まで東京エレクトロンにインターンシップに行ってきました。東京エレクトロンというと、最近ニュースにもなって聞いたことがあるという方もいらっしゃると思いますが、私は東京エレクトロンという会社のことをほとんど知らずにインターンシップに参加しました。参加してみると、東京エレクトロンという会社は半導体製造装置を開発している会社で、その部門では世界第3位のシェアを誇っている半導体業界を代表する会社ということを知りました。

東京エレクトロンでは、学歴は関係なく社員がやりたいことを挑戦させてくれる会社で『失敗は力がないとできない』という言葉が印象的でした。

実習内容は与えられたいろいろな課題を解決するために、グループで議論した内容のプレゼンを行うといったものでした。今までプレゼンを行った経験がなかった自分にとって、失敗を恐れず行動する力を身につけることができる良い機会になりました。



学外実習を終えて

4C 若杉 知秋

私は福岡県柳川市にある福岡県水産海洋技術センター有明海研究所で5日間の学外実習をさせていただきました。私がこの実習先を選んだ理由は、私自身があまり有明海について知らず、地元の海をこの機会に知りたいと思ったからです。学外実習では実習先の名前にも記載されている有明海に関する座学があり、実際に有明海で調査を行いました。

実習内容としては海苔の座学、浅海定線調査の補助、エツ卵稚仔調査等有明海で行われている調査や研究を5日間の中で多くのことを体験させていただきました。まず有明海で行われている海苔漁業に関しては、海苔に関することを詳しく学びました。さらに有明海で行った調査では実際に船に乗り現場に行き、有明海の現場を観察しつつ、サンプルをとるということを行いました。また調査等を行っている間に有明海の現状について研究所の方に教えていただきました。

この学外実習で有明海について学べたことは勉強になりました。それと同時に自分の知識の無さに恥ずかしさを感じました。さらに地元の海がどのようなになっているかを調査する等自分で体験し、研究所の人たちに聞いたことは私にとって貴重な時間になりました。さらに実習を行う上で、学校だけの知識では不十分であり、学校以外の世界にも興味を持ち、知識を得なければいけないと改めて感じました。私たちが勉強している教科がすべて生かされることは少なく、むしろ今学習していることを応用し、さらに他の分野にも視野を広げていかなければいけないと感じました。今回の学外実習でこのことに気付いたことは良かったです。今後の学生生活や社会に出て活かしていきたいと思っています。このことはこの学外実習だからこそ学べたことだと思います。

最後に、学外実習でお世話になった実習先の方々に感謝申し上げます。



インターンシップについて

4A 井上 安南

私は、「中島孝行アトリエ」で2週間の実習を行いました。以前から興味がある歴史的な建物についての学びを深め、進路を考える際の参考にしたいと考えたことが、中島さんの事務所を選んだ理由です。

実習では、主にCADでの図面づくりや積算業務を行いました。時間のかかる作業でしたが、建物の仕組みや一つ一つの部材を知る良い機会になりました。また、現場での調査や施主さんとの打ち合わせにも立ち会わせていただきました。

今回の実習で、伝統的な木造の技術を次の世代に受け継ぐことの必要性を痛感しました。また、人とのコミュニケーションがいかに大切であるか、ということも学ぶことができました。今回の実習を通じ、自分の目標を見つけることができたので、これからはその目標に向かって努力しようと思います。



実習を通して

6I 下蓋 光平

私は愛知県大府市にあるデンソーテクノ株式会社で2週間の実習を行いました。この会社は、トヨタグループに属し自動車の部品やカーナビなどの開発・設計を行っています。

実習は、製品開発を行っている各部署に1〜3名配属され、その部署で実際に行われている開発過程に携わるといったもので、私はカーナビ画面の一部の作成を行いました。カーナビ画面の作成の流れとして、顧客からの「こういう製品にしてくれ」という要求に従って、画面上にボタンを配置し、ボタンを押したときに別の画面へ遷移するようにプログラミングを行いました。画面が完成したら、それが実際に正しい動作をするかを確認するためテストも行いました。また、各工程の後には担当の方と作成した画面やプログラムに間違いがないかを確認する「レビュー」を行いました。このレビューでは、自分がどのように作成したのかを口頭で説明する必要があり、あいまいな説明では相手に伝わらず、次の開発工程にも不明点を持ち込むことになるため、品質が低下してしまいます。この工程を通して、「他人に分かりやすい、つまり簡潔で明瞭な説明」を行うことが仕事においていかに重要で、かついかに難しいかを学びました。

先ほど、開発している部署に配属されるといいましたが、実は今回私はカーナビ画面作成とはあまり関係のない人材育成部という所に配属されました。人材育成部は、一日中電話が鳴り響くにぎやかな部署で、配属された当初は戸惑いや緊張から萎縮してしまいました。しかし、周りにいらった優しい社員の方々が積極的に話しかけてくださり、新人研修のことや福利厚生、実際の仕事などについて詳しく教えていただけたので、非常に貴重な体験をすることができてよかったです。

実習を通して、「分かりやすい表現」が非常に大切であることを学びました。これから先、就職活動や学外発表など、他人へ何かを説明する機会もたくさんあると思うので、日ごろから相手のことを考え、どのようにしたら分かりやすいかを念頭に置いて、今のうちにできるようになりたいと思います。



実習を通して

6C 井元 純平

私はダイスタージャパン株式会社 大牟田工場で10日間の実習を行ってきました。ダイスター (Dye Star) では普段何気なく身に着けている衣服や車の内装などに用いられる染料を製造しており、その生産量は世界最大のシェアを誇っています。今回の実習では以前に欠陥が出てしまった染料の原因について検討を行う実験を行いました。初めて行う染料作りはわからないことばかりでしたが、時折、学校で学んだことが顔を出したのは驚きとうれしさを感じました。結果的に原因を見つけることはできませんでしたが有意義な経験ができました。また実験中に随時メモを取るように指導されました。このようなことは社会に出て常識になるので、習慣づけて今後の特別研究や授業等に役立てていこうと思いました。さらに、実験室には今までに学校で使用したことのある分析機器や装置があり、円滑に実験を行うことができたので、卒業研究などの能動的な実験は会社に入っても役立つのだと実感しました。

今回の実習を通してダイスターはとても安全教育に力を入れた会社だと感じました。まず工場に入っすぐに安全第一の文字が掲げられ、工場内ではヘルメットと保護メガネの着用、指差呼称が義務付けられていました。さらに安全週間を設けて安全に関する俳句などが毎年書かれていたのにも感銘を受けました。

今後は研究や実験では今まで以上に安全に心掛けていきたいと思いました。10日間とても有意義な実習ができ良い社会勉強になりました。



インターンシップを通して

6A 松尾 橘花

私は清水建設(株)九州支店にお世話になり、福岡徳洲会病院の建替新築工事の現場に行ってきました。実習では主に配筋チェックの業務を行いながら、建築・設備・工務、各部門の業務内容について教えていただきました。

現場に出ると、学校で学んだ知識・技術より、新たに学ぶことの方が多く、鉄筋コンクリート構造についての知識を深めるとともに、今まで漠然としかイメージがなかった建築物のつくり方というのを、細かなところまで知ることができました。

また、施工管理の仕事は計画と確認の繰り返しだと教えていただきました。この中で、現場の状況を把握し、多くの職人さんたちに指示を出して束ねていかなければなりません。そのためには、計画性、現状を認識する力、リーダーシップやコミュニケーション能力などを培う必要があると感じました。

そして、印象に残っているのはどの部門の皆様も仕事に誇りとやりがいを持って業務されている姿です。特に女性作業員の方が現場で活躍されている姿を拝見できたことは、私にとって意義あるものとなりました。

この10日間の実習は自分の将来のビジョンが見えた貴重な体験になりました。残りの学生生活ではこの経験を生かし、さらに自分を高められるものになりたいです。





有明次世代科学クラブ 2年目の取り組み

M科 坪根 弘明

平成24年度、科学技術振興機構主催の次世代科学者育成プログラムに、本校が提案する“環境問題の解決を担うエリート科学者養成プログラム『有明次世代科学クラブ』”が採択され、現在2年目の取り組みを行っています。この取り組みは、有明海周辺地域の中学1・2年生を対象に実施しており、環境問題に関する取り組みを通じて科学者の卵を育てる教育を実施するプログラムです。

今年度は6月15日(土)に実施された入校式・始業式を皮切りに、月に約1回活動を行っています。今年度は、西海区水産研究所の松山幸彦先生をお招きして学習会を実施し、また、柳川市にある沖端漁業協同組合の海苔工場や竹下産業株式会社の見学なども行っています。現在、海苔の排水問題について、実験的な改善方法の検討を行っているところです。

今年も中学生の成長と活躍が楽しみです！



海苔の分離予備実験の様子

秋Fes. in 大牟田に参加して

3M 中村 匠吾

今回、私達4人(筆者、今村匠、中嶋智穂、ヒラスマナル)は、10月14日(月)に行われた「秋Fes. in 大牟田」に参加しました。「秋Fes. in 大牟田」とは、大牟田市内の7校の高校生たちが大牟田の活性化を目的とした企画・立案をし実行する事業で、私達は「大牟田の歴史をたどるピタゴラスイッチ」を展示発表しました。

この企画に参加することになったきっかけは、今年の春に募集が行われていた「おおむた学生会議所」に加入したことからでした。「絆で創る未来の大牟田」をテーマに掲げることからスタートし、大牟田市内の私達を含む高校生100名が、今後の大牟田の活性化のために何をすべきなのか、何が必要か、自分たちには何ができるかと会議しました。その結果、郷土愛を皆で共有して、現在はシャッター街である中心市街地の活気を取り戻したいという考えにまとまり「秋Fes. in 大牟田」を開催することになりました。

自分達で企画から作成していくのは初めての経験で、失敗もたくさんしました。だけど、これから社会に出て行く中で役に立ちそうなことをたくさん学べたので、このような経験をさせてもらった学校側と青年会議所のかたには感謝しています。

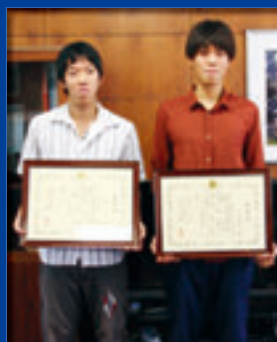


生産情報システム工学専攻2年の井上君が国際学会で受賞



平成25年8月、タイのバンコクで行われた「JTL-AEME2013」において生産情報システム工学専攻2年の井上優良さんが発表した「FPGA上で動作するマイクロブレイズとベタリナックスの基礎研究」に対し「Best Paper Award」が授与されました。

宗像地区消防本部から表彰状



4M境駿一君と4C江崎真史君に宗像地区消防本部から表彰状が贈られました。2人は、7月14日に福岡県福津市恋の浦海水浴場で発生した水難事故に際し、迅速的確かつ勇気ある行動により溺れている親子を協力して救助しました。その行為に対し、表彰状が贈られました。

編集後記

今号では、創立50周年を記念した特集として、長年有明高専にお勤めの先生方の座談会の模様を掲載しました。皆さんも、先日の創立50周年記念式典に参加し、色々と思うところがあったのではないのでしょうか。有明高専の歴史の重みを感じたり、これからも頑張ろうと気持ちを新たにしたり。

学びたいことを学べる学生生活は後から振り返ってみると短いものです。これまで数多くの素晴らしい技術者を産み出してきた有明高専で学べることを誇りに思い、充実した日々を送って欲しいと思います。

気象庁の発表によると、今年の冬も「寒い冬」となる見込みです。体調には十分注意し、来る2014年を元気に迎えましょう。
(広報室 巖島 えり子)

有明高専だより 第141号

平成25年12月2日

編集：有明高専広報室
発行：有明工業高等専門学校
〒836-8585 大牟田市東萩尾町150
TEL 0944-53-8861 (学生課)
<http://www.ariake-nct.ac.jp/>

花咲く技術を-Here are Lights-

